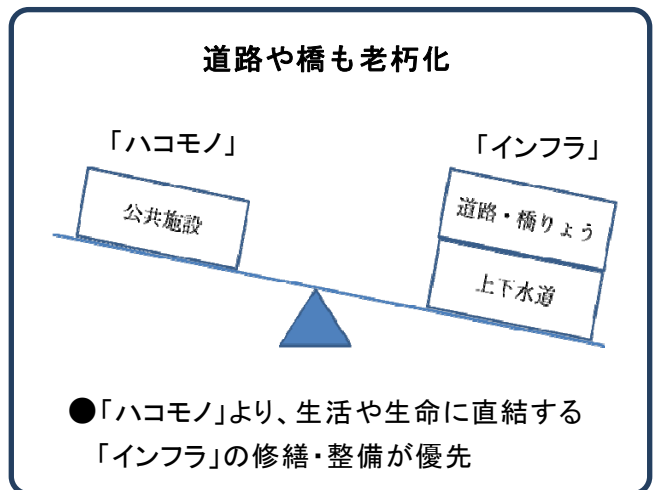
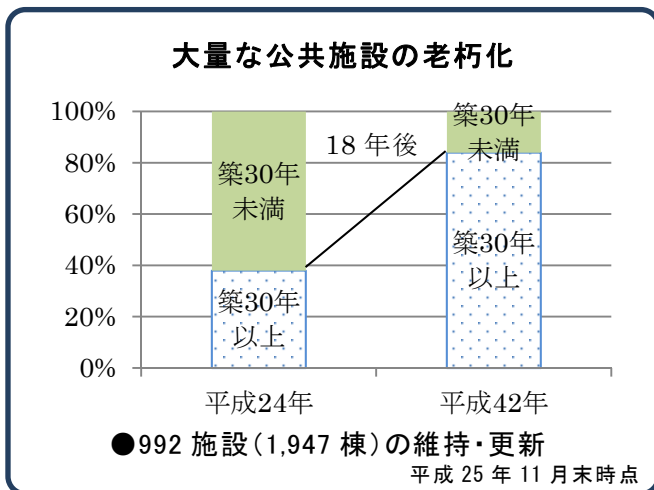
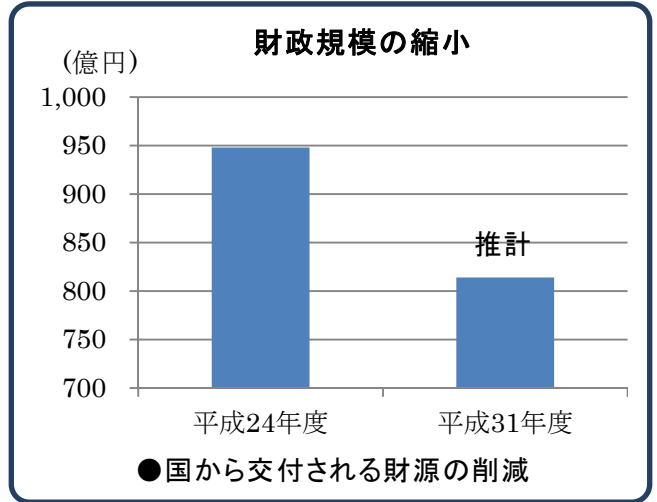
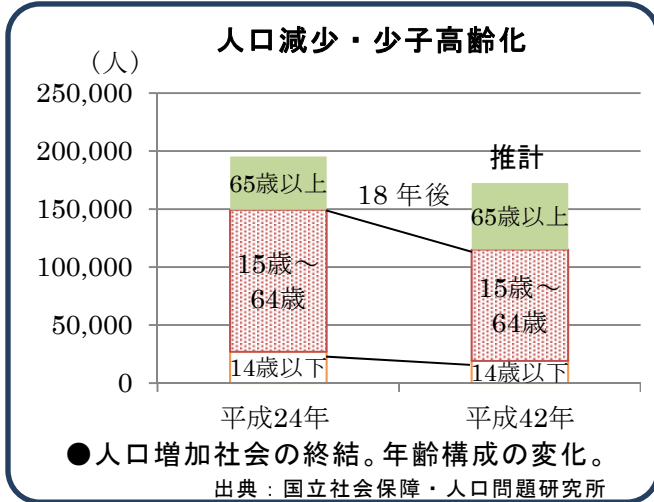


なぜ、いま、公共施設(ハコモノ)のあり方を見直すのか？

～公共施設ファシリティマネジメントの推進について～



求められる施設機能の高度化 ●バリアフリー、環境負荷低減、高度情報化など

このような中、
 “高度経済成長期”に建築した公共施設が一斉に建替え時期を迎えます

様々な工夫による公共施設の量の適正化・再配置

施設管理・建設費等を縮減し、行政サービスを維持・向上

サービスと施設の好バランス
 新たなニーズへの柔軟な対応
 ⇒**住んで幸せなまち!**

現在の公共施設を維持・更新

施設管理・建設費が増大し、行政サービスを圧迫?

施設はあるけれど
 行政サービスの質・量に制限
 ⇒**こんなはずでは?**



1. 鳥取市の取組状況

平成25年4月 財産経営課に担当者を配置

6月 『鳥取市FM※推進プロジェクトチーム』を設置（リーダー：総務調整監）

『公共施設に係る取り組みの3つの柱』を決定

※FM…ファシリティマネジメントの略。公共施設（ファシリティ）を総合的に企画、管理、活用する手法

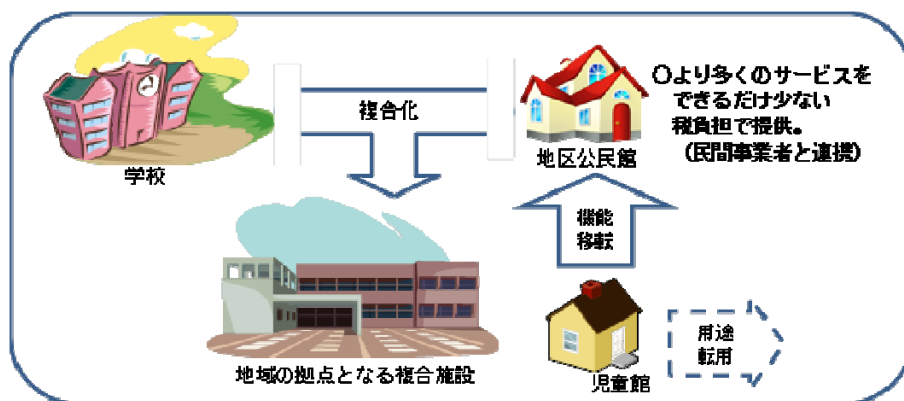
2. 公共施設に係る取り組みの3つの柱と考え方

①保有財産の最適化（総量の適正化と効率的な施設運営）

保有財産の最適化に向けて、コスト・サービス水準・サービス供給量の3つの視点で施設の現状を評価※し、施設の統廃合や見直しに組み、市が持ち続ける施設については、安全で快適に利用できる環境の提供とサービスの向上をめざします。

※公共施設の現状や課題等をまとめた『鳥取市公共施設白書(仮称)』を作成中

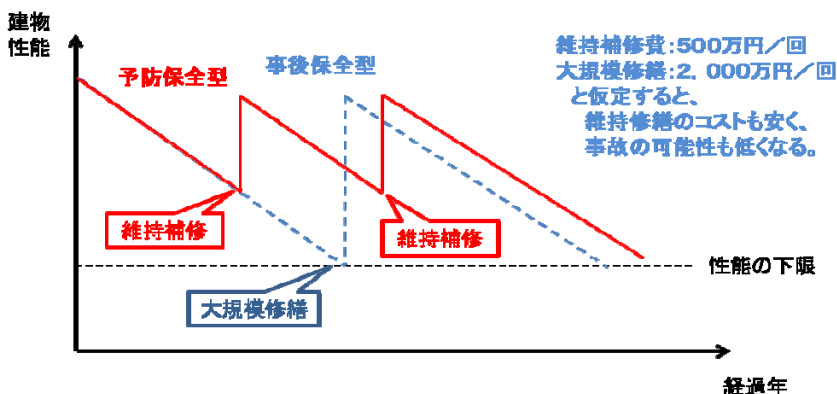
《先進自治体の
施設見直しイメージ》



②ライフサイクルコストの最適化（無駄を省いた効率化とサービスの向上）

市が保有すべき施設については、施設改修の優先順位の明確化や計画的修繕、長寿命化対策、維持管理の合理化等によって、ライフサイクルコストを最適化（縮減）し、施設全体にかかる財政負担の軽減や平準化をめざします。

《施設の修繕時期を
見直すことによる効果》
(イメージ図)



③保有財産の利活用（資産の有効活用と増収策）

保有している既存ファシリティ（建物・土地）の目的や利用状況などを踏まえ、戦略的な活用に取り組むことで、財産の有効活用と新たな財源確保に努めます。

※例：福部総合支所内への郵便局入居や日置谷小学校への植物工場誘致など

3. 今後の進め方(案)

平成26年2月 『鳥取市公共施設白書(仮称)』の公表、広報活動

4月～ 『公共施設の総量適正化に向けた基本方針(仮称)』策定作業の開始